

日本カリキュラム学会編「現代カリキュラム研究の動向と展望」教育出版 2019年5月30日刊を読む

## カリキュラムとは何か

### I カリキュラムと教育課程

#### 1. 「教育課程」

- (1) 「教育課程」ということばは、1951年の学習指導要領で、外国語の curriculum(カリキュラム)の日本語訳として公的に初めて用いられた用語。
- (2) 1958年の学習指導要領以降は、文部科学省の解説書において公的な「教育課程」の語義が示されて、今日まで変わっていない。
- (3) 学校において編成する教育課程とは、「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業数との関連において総合的に組織した学校の教育計画」である。(文部科学省 2004年)
- (4) 注目すべきは、「学校で編成する教育課程」に限定していること。
- (5) 日本では、「国家教育課程」という用語は、通常使えないことになる。

#### 2. 「カリキュラム」(Curriculum)

<原語の英語の意味を反映し、「限定」を越える広い意味を持っている>

##### (1) 「カリキュラム(curriculum)」は、

- 国家の次元から学校ないし個人の次元までを含む子どもの「学習履歴」を指す。学校でのものだけでなく、社会に出てからのものも含めるべきだ。(W.Pinar, アメリカ)

##### (2) 「カリキュラム(curriculum)」は、

- ①「計画レベル」、②「実施レベル」、③「結果レベル」の3つのレベルすべてを含む広範囲のものをいう。

- 国際教育到達度評価学会(TIMSS, 第3回数学・理科教育調査)の「カリキュラム」の定義は、

- ①「計画したカリキュラム」
- ②「実施したカリキュラム」
- ③「達成したカリキュラム」の3つのレベルものが示されている。

- ∴「潜在のカリキュラム」が注目されているが、「潜在的教育課程」ということばは通常使用できない。

##### (3) 「カリキュラム」は、

- 「子どもの学習経験の総体」などと規定されることが多く、主に、子どもの側の視点を入れたものである。
  - 「カリキュラム」は歴史上、大学で初めて使われた用語であり、教えるべき内容を中心に考えられてきたが、
  - 初等・中等学校のカリキュラムを考えると、子どもの側の条件を考えねばならない。
  - とともに、20世紀初頭の「児童中心主義」に立つ新教育運動を経た現在では、子どもの側の観点からカリキュラムを考えることが求められる。
- (4)①「実施レベルのカリキュラム」では「授業研究」が、
- ②「結果レベルのカリキュラム」では、「評価研究」が必然的に関わってくる。
- (5)「カリキュラム」とは
- ①「教育課程表などとして書かれた計画文書」
  - ②「それを実施している授業全体の過程」
  - ③「その結果として、テスト成績や通知表の中身に現れる子どもの姿」
- \*以上3つのレベル全体を含むと理解しなければならない。

### 3. 「カリキュラム」と「プログラム」

- (1)「プログラム」とは
- ①「カリキュラム」の一部を示すより狭いもの。
  - ②しかも、どちらかといえば、「計画レベル」のものを指していることが多い。
- (2)①「国語科カリキュラム」とはいうが、「国語科プログラム」ということはほとんどない。
- ②その国語科の中に
- ㉠「読み方のプログラム」
  - ㉡「漢字の書き方プログラム」
- とかいうのが普通である。
- (3)「プログラム」とは、「カリキュラムの中にあるより細かい部分的な指導計画、学習計画を指している」。

## Ⅱ カリキュラムの実体と類型

1. (1)カリキュラムとは何を意味しているのか。
- ①一般に curriculum の言語の語源としてラテン語の「currere」があげられる。
  - ②学習者の学習を「走る」ことに見立てて、「走路＝経歴・履歴」(Course of Study)のこととされる。
  - ③大学などでは「履修課程・教科課程」などとも訳される。
- (2)カリキュラムの「実体」、「区別」は次元やレベル、文脈に依存し、その中身も異なってくるといえる。

- ①学習者一人ひとりのもの(Aさんのカリキュラム)
- ②学校が用意した、学習者全員のもの(小学校のカリキュラム)
- ③各教科・科目ごとのもの(国語科カリキュラム)
- ④ある地域・地方のもの(愛知県知多地方のカリキュラム)
- ⑤国のもの(英国のカリキュラム)

(3)カリキュラムは

- ①教師と学習者との間で、両者の成長・発達、特に学習者の資質・能力の育成の「手段・道具・媒介」として位置づけられ、機能するもの。
- ②それは必ず「教育内容」を伴うもの。
- ③これを伴わない教育場面もあるが、それは「カウンセリング」というべき。

## 2. カリキュラムの要素

—具体的なカリキュラムは、次のような要素により、一定の方法的処理を経てつくられる—

(1)教育内容

- ①教える知識・技能・態度・価値・活動・経験

(2)組織原理(教育内容の組織の仕方)

- ①教科
- ②科目
- ③〇〇活動
- ④〇〇時間など

(3)履修原理(履修の仕方)

- ①年数(年齢)主義
- ②課程主義
- ③必修、選択など

(4)教材(教育内容を教える際の材料・道具)

- ①教科書教材
- ②視聴覚教材
- ③実験教材
- ④実物教材

(5)授業日時数

- ①年間授業日時数
- ②週時数
- ③一日の時数
- ④単位時間など

(6)指導形態

- ①一斉指導
  - ②小集団指導
  - ③個別指導
  - ④実習
  - ⑤実験
  - ⑥調査など
- (7)指導方法・指導技術
- ①発問
  - ②指示
  - ③説明
  - ④評価など
- (8)授業内容
- ①授業中における情報・意見の交換など
- (9)潜在的カリキュラム
- ①授業の目標を越えて、子どもが結果的に身に着けた知能・技能・態度など
- (10)以上は学校などでの「カリキュラム」の具体的なイメージを描く際に、手がかりになるもの。
- ①指導目標である「資質・能力」に即して、「計画レベル」の「教育課程」のものは(1)～(7)によってつくられる。
  - ②「実施レベル」のものは(7)と(8)において具体化される
  - ③実際に達成された「結果レベル」のものは(8)と(9)に含まれており、そのレベルごとに異なったものとなる。
- (11)今後、「カリキュラム」を論じる際には、どのレベルのカリキュラムを扱っているかを明示する必要がある。レベルによって扱う要素が異なってくるからである。